



写真 Y字に交わる用水路の正体は？（加須市小野袋） 答えは展示をご覧ください

かわはく No.52

CONTENTS

平成26年度春期企画展案内「河川改修の歴史と人々の暮らし」…	2
平成26年度特別展「荒川流域の鉱山と産業 ～地下資源の利用と人々の暮らし～」開催報告…	3
1月企画展「写真で見る埼玉の生きもの」で実施した動物の人気投票結果…	4
電顕研修会報告	5
今年度の新企画イベント開催報告	6
館長のつぶやき「ポドゾルに魅せられて」	7
新コーナーのお知らせ	7



平成26年度春期企画展案内

河川改修の歴史と人々の暮らし

会期：平成27年3月14日(土)～5月10日(日)

平成26年度春期企画展「河川改修の歴史と人々の暮らし」について紹介します。

私達が暮らす埼玉県には、県の中央に荒川が、県の北部には利根川が流れ、他にも大小様々な河川が流れています。これら河川は古くから人々の暮らしに大きな恩恵を与え、同時に洪水をはじめ様々な災害をもたらしてきました。

また、現在の河川に目をむけると、河川は直線的に流れ、両岸には立派な堤防が築かれ、時には放水路が開削され、まさに「整備された河川」となっています。

当館は「川」をテーマとして博物館として、これまでに川にまつわる様々な展示・イベントを企画・実施してまいりました。今回展示を担当させていただく私も、かわはくに勤務して6年、来館者の皆

様と一緒に埼玉県内の河川について共に学んでまいりました。そして今回、改めて川について興味を持たれて来館されるお客様の視点に立って、「河川改修」をテーマとした展示を企画してみました。

ただ県内の河川改修の歴史を紹介するだけではなく、治水・利水に関する先人の知恵や、最新施設の紹介、そして「河川改修を」、「洪水に対する備えを」、「荒川の流れを」体感していただける展示コーナーを設けます。

また関連イベントとして、川をテーマとしたウォーキングイベントや当館施設「荒川大模型173」を使用した展示解説も行います。

皆様ぜひ、企画展に、そして関連イベントに足を運んでください（*各イベントの詳細および申し込み方法は、最終ページをご覧ください）。

《主な展示内容》

○プロローグ 現在の埼玉県内の河川環境

○第1章 過去の水害を伝える品々
～当館収蔵品より～

○第2章 荒川・利根川の流路の変遷
・特集コーナー1「かわはく河川大辞典
～河川改修の話でよく耳にする言葉特集～」
・ハンズオンコーナー「河川改修を長さで体感しよう!!!」

○第3章 治水対策を高さで体感
吉見町にある巨大な水塚を等倍写真で展示します。

○第4章 洪水との戦い
～荒川流域の治水施設の歴史～
・コラム1 川幅日本一はどんなところ？

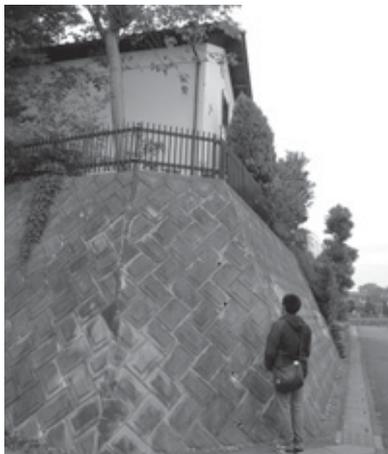
○第5章 新しく開削された河川

- ①首都圏外郭放水路
- ②武蔵水路
- ③見沼代用水・見沼通船堀
- ・コラム2 武蔵水路はどこを通る？

○第6章 街の境はどこで決まる？
～埼玉県内の市町村境の不思議～

- ・特集コーナー2「河川改修その後…～川の跡はどうなった？～」
- ・チャレンジコーナー「埼玉県の白地図に荒川の流路を書いてみよう！」

○第7章 東武東上線の車窓から見える河川
*リバーホールや展望台等にも特設コーナーを準備します。
(研究交流部 羽田武朗)



吉見町に残る巨大な水塚



現在の荒川（さいたま市西区）



平成26年度
特別展

荒川流域の鉱山と産業

～地下資源の利用と人々の暮らし～

開催報告

会期：2014年10月4日（土）～11月24日（月・祝）

今年度の特別展のテーマは鉱山と産業ということで、最初は正直な気持ちとして地味すぎるのではないかと考えました。しかしこれまでに埼玉県産の鉱山の資料をひとつにまとめたものはありません。特別展は姉妹館である埼玉県立自然の博物館が主体となって企画しますが、埼玉県の博物館として是非実施を、という運びになりました。

展示の内容はまず地下資源とは何か、どのように出て採取するのか、実物の鉱石と共に紹介しました。そして歴史時代の鉱業では県内の遺跡から発見された秩父ヒスイでできた装飾品や自然銅、製鉄遺跡などを実物や写真と共に紹介しました。次に県内の鉱山を、秩父鉱山を中心に紹介しました。金属鉱山は現在閉山していますが、非金属鉱山である石灰岩鉱山は今でも県の重要な産業です。また鉱山開発に欠かせない輸送網として鉄道もとりあげ、石灰岩を輸送する鉄道ジオラマと共に紹介しました。最後に武甲山採掘跡地の緑化を例に開発と環境保護について紹介しました。

そして特別展が始まると、特に高校生以上の方の来場が多く、なかにはじっくりと1時間以上かけて展示をご覧になったお客様もいらっしゃって、鉱物や鉄道に興味のある方がたくさんおられることがわかりました。ご家族が鉱山に関係する仕事に就いておられた方や、子供のころに、今は廃線となった鉱山の専用線に走る列車を見たことがある方など、様々な思いを持って展示をご覧頂いたのでした。

関連イベント報告

○砂金採り教室【10月4日（土）】

講師に坂本治氏を迎え、まずは室内で砂金についてお話し頂きました。ナゲットと呼ばれる本物の大粒砂金を見せて頂いてやる気十分となったところでかわせみ河原へ移動、真剣なまなざしでチャレンジです。そして次第に「これはもしかして…？」の声。ナゲットとはいきませんが、何組かの方は砂金を見つけることができました。

○滑石でまが玉づくり【10月26日（日）】

かわはく体験教室を兼ねて実施しました。滑石は石としてはやわらかく、現在は化粧品や製紙原料として利用され、歴史的には装飾品などに利用されてきました。その滑石を1時間半をかけて磨き、参加者のオリジナルまが玉ができました。

○青空教室「深谷駅から日本煉瓦専用線跡をたどるウォーキング」【11月9日（日）】

当日は青空のはずが雨…。しかし前日までのキャンセルを除くと参加申し込み頂いた方は全員参加で、傘をさしながらも深谷駅から日本煉瓦史料館までの約4kmの専用線跡を歩きました。途中で地質や土壌、土の採取と畑の段差の関係、歴史の話を行い、煉瓦史料館では特別公開のホフマン輪窯の見学を行いました。

○講演会「埼玉県の古代製鉄遺跡」【11月16日（日）】

講師に（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団の赤熊浩一氏を迎え、埼玉県の古代製鉄遺跡についてお話し頂きました。実際にどのように製鉄炉を使っていたのか、炉の種類と年代、なぜ製鉄遺跡がそこにあるのか、など非常に興味深いお話を頂きました。



砂金あるかな？（砂金採り教室）



福川鉄橋見学（ウォーキング）

展示をご覧頂いたお客様、イベントにご参加頂いたお客様、興味深い質問やお話を頂いた皆様に感謝申し上げます。（研究交流部 森 圭子）



写真で見る埼玉の生きもの

1月企画展「写真で見る埼玉の生きもの」は2015年1月24日～2月22日に開催されました。埼玉県に生息する野生動物（獣・鳥・魚・両生類・爬虫類）に注目し、写真を中心に標本を加えての内容です。県内のアマチュアカメラマン、博物館学芸員と学芸員OBなどの方々にご協力をいただき、当館学芸員が撮影した写真を加えて59点を展示しました。鳥類・哺乳類の剥製は県立自然の博物館のご協力により大きなツキノワグマやニホンカモシカ、小さなヤマネまで21体展示しました。また、当館学芸員のコレクションである鳥類の羽を10種、当館作成の爬虫類の凍結乾燥（フリーズドライ）標本を9体展示しました。

さらに、本展示は写真展としての企画でしたが、県環境部みどり自然課、県環境科学国際センター、熊谷市ムサシトミヨ保護センターのご協力をいただき、県の魚ムサシトミヨの生体展示も実施しました。

関連イベントとして、展示された写真・生体・標本に登場する生きものを68種ノミネートした人気投票を実施しました。結果投票総数は155で、トップはカワセミの22票でした（結果表参照）。カワセミはマスコットキャラクター「カワシロウ」として当館とは縁が深く、当館にふさわしい？結果となりました。上位は鳥類が連ね、美しいカワセミやルリビタキに加え、大きくてかっこいいオオタカ、大きいけどかわいいフクロウなど個性派鳥類の票が伸びました。また、哺乳類も数多くラ

ンクインされましたが、ヤマネが2位のほかに票が割れたので、全体的に哺乳類の高い人気がかえります。何かと忌み嫌われている爬虫類のヘビ類2種がランクインされましたが、マニア人気？なのか、かなり健闘したのではないのでしょうか。残念ながら筆者が専門のカエルなど両生類は全く蚊帳の外だったことに加え、県の鳥であり、マスコットキャラクター「コバトン」のモデルとなっているシラコバトは投票がありませんでした。傾向として、上位ランクインの種は写真・標本双方が展示されていたものが多く、来館者にしっかり見ていただいたという展示効果があったのではないのでしょうか。（研究交流部 藤田宏之）

■ 人気投票結果 ■

順位	種名	票数	備考
1	カワセミ	22	鳥類
2	ヤマネ	18	哺乳類
3	オオタカ	9	鳥類
4	ルリビタキ	8	鳥類
5	フクロウ	7	鳥類
6	アオダイショウ	5	爬虫類
6	アライグマ	5	哺乳類・外来種
6	ニホンリス	5	哺乳類
9	アカネズミ	4	哺乳類
9	キツネ	4	哺乳類
9	シマヘビ	4	爬虫類
9	ツキノワグマ	4	哺乳類
9	ニホンザル	4	哺乳類



県の魚ムサシトミヨ



ハタネズミ



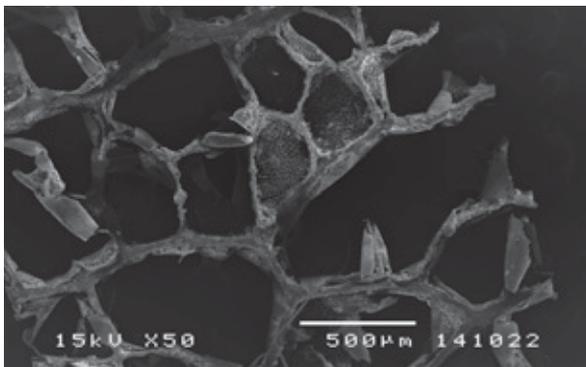
電子顕微鏡の世界 (13) ～電子顕微鏡操作研修会～

埼玉県立川の博物館では、走査型電子顕微鏡(略称SEM)を所有しています。当館ではSEMを積極的に活用していただくことを目的に、県内の先生方を対象にした電子顕微鏡操作研修会を毎年開催しております。今年度は20名を超える応募があり、その中から抽選で14名の先生方に電子顕微鏡の操作を体験してもらうことができました。午前中に電子顕微鏡の仕組みと基本操作について学んでいただきました。午後は各自ご用意された試料を観察してもらうことができました。先生方はとても熱心で、電子顕微鏡を利用したすばらしい写真が撮影されました。研修会の際に撮影

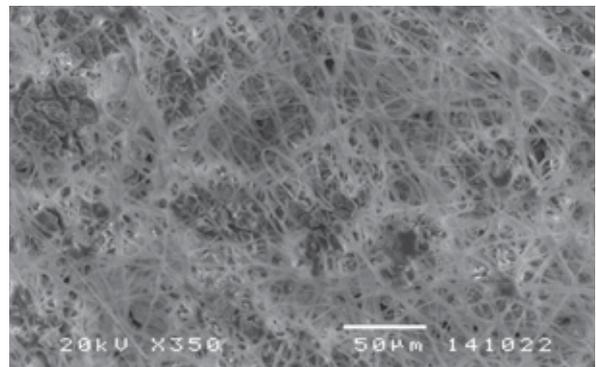
された写真を掲載します。

平成27年度も研修会の実施を予定しております。SEMを利用することで、普段なかなか見ることのできないミクロの世界を垣間見ることができます。電子顕微鏡で撮影した写真は、教材として活用することもできます。また川の博物館のホームページにも、当館で撮影された電子顕微鏡写真を資料として掲載しています。

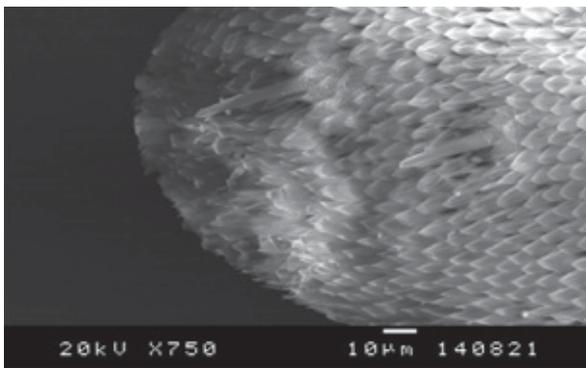
残念ながら抽選にもれてしまった方々は来年度も実施の予定がありますので再応募お願いします。
(研究交流部 石井克彦)



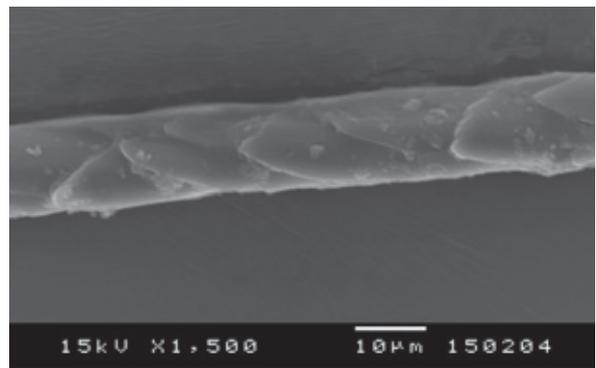
①埼玉県立滑川総合高等学校 安斎由佳 「枯葉」



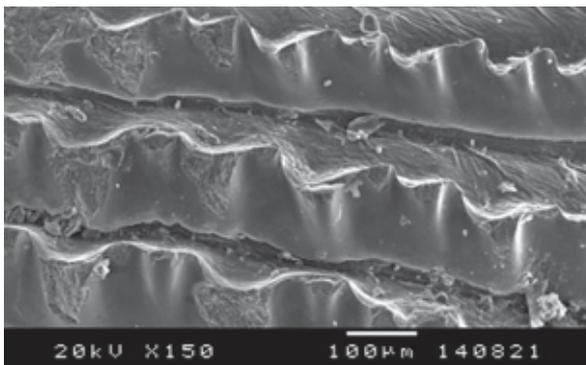
②埼玉県立越谷高等学校 村瀬まち子 「鶏卵殻の内側」



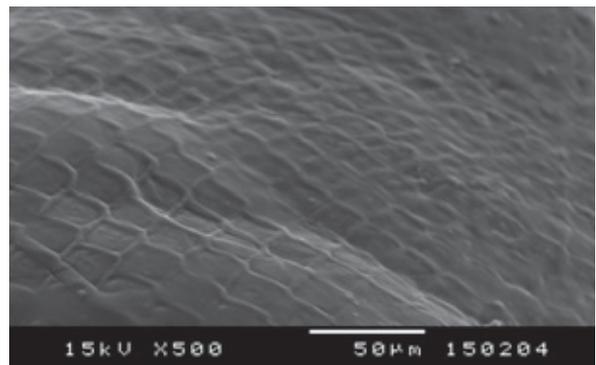
③春日部市立豊春中学校 片野貴元 「チョウの触角先端部」



④埼玉県立浦和高等学校 加藤大士 「ネコの体毛」



⑤三郷工業技術高等学校 千代田厚史 「カモメガイモドキ前区表面」



⑥志木市立第2中学校 入野岳 「ヌマエビの一種の複眼」



今年度の新企画 イベント開催報告

かわはくでは毎年実施するイベントもあれば、新しい試みとして実施するイベントもあります。今回は新企画の中から2つを紹介します。次年度もどのような企画があるか、お楽しみに！

「かわはくでハロウィン」 開催日：10月25日（土）

日本でもすっかり周知され、様々なイベントが展開されるようになったハロウィン。当館でも今年度より季節イベントの1つとしてハロウィンイベントを開催することになりました。

イベント開催にあたり、一番頭を悩ませたのが、「博物館として、どんなイベントができるのか？」という点です。

ハロウィンと聞いて頭に思い浮かべるのは、「ハロウィン」＝「仮装」、「ハロウィン」＝「trick or treat」、やはりこの2点は外せない要素だと思います。なので、まずは仮装して来館していただいた方へのサービス企画を実施（限定缶バッジとアドベンチャーシアターの招待券をプレゼント）。また周辺で採集できる自然の素材を使用して「仮装用マント」を作るコーナーを設置したり、館内に魔女に仮装した交流員を配置したり、当館マスコットキャラクター「カワシロウくん」も魔女に仮装してもらいました。

スタッフ一同いろいろ頭を悩ませて、はじめて

企画・実施してみた、ハロウィンイベント。お客様にはどうやらお楽しみいただけたようです。

来年度はよりスケールアップした形で、ハロウィンイベントを開催する予定です。皆さん、ぜひ仮装して当館にお越しください！きっと魔女になったカワシロウが出迎えてくれますよ！！

（研究交流部 羽田武朗）



自然の素材も使って、手作りの仮装用マントを作っている様子

「化石クリーニングに挑戦！」開催報告 開催日：2015年2月7日（土）・8日（日）

かわはく体験教室として、本格的な化石クリーニングを行うイベントを開催しました。講師として、黒部市吉田科学館の久保貴志氏にお越しいただき、当館学芸員とともに協力し実施しました。

博物館に展示してあるような形がはっきりと見えている化石は、たいていクリーニングされた後の化石です。自然の状態では化石の周りに岩石がくっついているなどし（この岩石を母岩といいます）、化石の全貌はわからないことが多いのです。

今回のイベントでは、久保氏らが、かつて北海道で採集してきたアンモナイト等の化石が入った母岩を使用し、ハンマーやタガネを使って化石を取り出すクリーニング作業を参加者のみなさまに体験して頂きました。より適切な作業を行っていただくために、事前申込制、1回8組限定で、2日間にわたり16組の方にご参加頂きました。ハンマーなどの道具を使用する力のいる作業で、根気も必要なことから、4年生以上の親子を一組とさせて頂きました。

クリーニングは、母岩中にどのような形で化石が眠っているのかを想像しながら行う作業です。参加者一人一人と、岩石と一緒に見てじっくり対

話しながら作業を進めました。

今回、当館のスタッフだけでなく、他館の専門家と協力し合ったことで、このようなきめ細やかな対応ができたのだと思います。他館との協力を図ることで、これまでにはないイベントを行うことができる可能性を大きく感じられるイベントとなりました。（研究交流部 杉内由佳）



講師からのアドバイスを受けている参加者



館長の
つぶやき

「ポドゾルに魅せられて」

今にして思えば、人生のターニングポイントがどこだったかわかる。学部の時、写真部で山好きというので中央アルプス縦走のアルバイトを頼まれたことである。お金も割合よく、かつ宿泊食事つきなので、一にも二にもなく受けた。重い三脚とニコンFそれに交換レンズを背負っての縦走は大変であった。頼まれた仕事は、ハイマツの生えている風景とその下に発達した白と赤褐色の縞模様を持つ乾性ポドゾルという見た目にもきれいな土壌の撮影。その時は土壌に興味もなく、ただ暗い穴を必死で撮影した。これがターニングポイントで、目の奥に被写体が焼き付いてしまい、大学院の研究のテーマになってしまった。

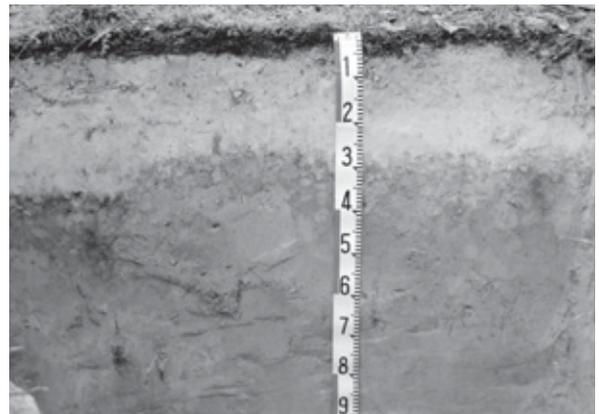
その後研究テーマがポドゾルから離れても、ポドゾルという名前に惹かれて、北はオホーツク海沿岸の浜頓別の砂丘ポドゾル、3,000mの北アルプスのハイマツ下の高山ポドゾル、木曾御岳山麓のヒノキ林下の湿性ポドゾルそれに高知県入知山のコウヤマキ林下に発達する乾性ポドゾルとポドゾルがあれば全国に出かけて行った。

中国雲南省に赤色土の調査に入った時、ベトナムに近い2,500mの広葉樹林下で偶然にも熱帯ポドゾルの断面に行き当たった。感激のあまり、長い間穴の中に座っていたのは言うまでもない。その後台湾阿里山のタイワンヒノキ林下の熱帯ポドゾル。また、南太平洋のバヌアツでは、バスケットポドゾルを探してカウリツリーの大木の下を、藪をかき分けながら、何か所か探したがここでは

見当たらず。さらにはブータンでは、3,000m付近の針葉樹-シャクナゲ林下の湿性ポドゾルらしき断面を横目に、止まったら二度と動けないへろへろの状態当日のキャンプ地まで必死で足を動かした。キャンプ地が見える低木のシャクナゲが茂る峠でふと足元を見ると土手がきれいなポドゾルであった。4,319mの世界最高地のモノリスが採取できた。その後、キャンプ地までは足が元気に動いたことは言うまでもない。

やはり最後は、本命ロシアのポドゾル、ブルーベリーが生えるにあるヨーロッパアカマツ林。スコップを入れると下から真っ白な砂、やはり本場は違う。その感触を味わいながら掘った穴の中にいつまでも座っていたかった。ビバ、ポドゾル！

(館長 平山良治)



ロシア、サンクトペテルブルク近郊のポドゾル
0-5cmが黒い腐植の層、5-30cmが白い砂の層、30cm以下が明るい褐色の層

新コーナーの
お知らせ

かわはく研究室 ~川・自然・歴史~

川の博物館ではお客様に色々なイベントを楽しんでもらうべく、新しい企画を考えています。今年度は、川の博物館の学芸員とお客様の接点をより一層充実させるために「かわはく研究室~川・自然・歴史~」という新たなコーナーを設けることとなりました。毎月一回、担当学芸員が各自の専門分野や知識を生かしたイベントを行います。講座の場合、事前申し込みが必要ですし、2時間ほどの時間が必要ですが、かわはく研究室は事前申し込みが不要で、短い時間で気軽に学芸員と話

をしたり、質問したりできるイベントとして実施します。内容は様々で、時間や場所も異なりますので、行案内やホームページを是非チェックしてみてください。

また、かわはく研究室を実施していない日でも、本館入口でお問合せ頂ければご質問や、この間〇〇を見たんだけど…というようなお話も歓迎ですので、どうぞお気軽に声をかけてみてください。お待ちしております。

(研究交流部 森 圭子)

4月

3/14/土~5/10/日

春期企画展「河川改修の歴史と人々の暮らし」

3/10/火~6/28/日

スロープ展「よりの桜」

5/日

かわはくであそぼう・まなぼう「桜の押し花づくり」

時間：13：30～15：30

費用：無料

定員：なし（材料がなくなり次第終了）

内容：桜の押し花をつくります。

12/日

春期企画展関連イベント兼荒川セミナー「元荒川を歩く」

時間：10：00～16：00（予定）

費用：100円（保険料）

定員：20名（申込順）

集合：JR熊谷駅

内容：荒川の瀬替えの現場周辺を散策します。

18/土

かわはく体験教室「コウモリ観察会」

時間：16：30～18：30

費用：100円（保険料）

定員：25名（申込順）

内容：講師の方を招き、コウモリの観察をします。バットディテクターを使用して、普段聞くことのできないコウモリの超音波を聞き取ります。

19/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～「オタマジャクシを観察しよう」

場所：荒川情報局もしくはリバーホール

費用：無料

定員：随時5名ほど

内容：オタマジャクシやサンショウウオを観察し、解説します。

25/土

春期企画展関連イベント兼荒川セミナー「荒川放水路を歩く」

時間：10：00～16：00（予定）

費用：100円（保険料）

定員：20名（申込順）

集合：JR川口駅

内容：荒川放水路周辺を散策します。

毎土・日・祝

春期企画展関連解説

「かわはくで「荒川」について改めて学んでみませんか？」

時間：11:00～ 14:00～

場所：荒川大模型173

内容：「荒川大模型173」を使用して、荒川の歴史・自然等について解説します。

5月

5/30/土~6/21/日

5月企画展「土ってなんだろう？」

2/土~6/水・祝

かわはくGWまつり 時間：10：00～16：00

3/日・祝

かわはくであそぼう・まなぼう

「地質の日記念・ストーンペインティング」

時間：13：30～15：30

費用：無料

定員：なし（材料がなくなり次第終了）

内容：荒川の石に絵を描いて遊びます。

10/日

春期企画展関連イベント兼荒川セミナー

「見沼代用水を歩く」

時間：10：00～16：00（予定）

費用：100円（保険料）

定員：20名（申込順）

集合：JR東浦和駅

内容：見沼通船堀を見学し、その後見沼代用水東縁を散策します。

10/日

まで毎土・日・祝

春期企画展関連解説「かわはくで「荒川」について

改めて学んでみませんか？」

時間：11:00～ 14:00～

場所：荒川大模型173

内容：「荒川大模型173」を使用して、荒川の歴史・自然等について解説します。

17/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～「ムシ虫ウォーク」

場所：かわはく敷地内（屋外）

費用：無料

定員：午前・午後 各1回10～15名ほど

内容：博物館周辺の昆虫をさがします。

23/土

かわはく体験教室「川の生きものの観察」

時間：13：30～15：30

費用：100円（保険料）

定員：20名（申込順）

内容：かわせみ河原で、川の中にすむ生き物の様子を観察します。

30/土

5月企画展関連イベント「光る！泥だんごづくり」

時間：13：30～15：30

費用：800円（材料費）

定員：20名（申込順）

内容：びかびかと光る泥だんごを、タネを丸めるところから行います。

6月

6/30/火~9/6/日

スロープ展「特別展サテライト展示・荒川のまつり」

6/土

5月企画展関連イベント
「ミニモノリス（土壌標本）をつくろう」

時間：13：30～15：30（予定）

費用：200円（材料費）

定員：20名（申込順）

内容：土の断面を縮小して再現してみます。

アート作品のようなミニモノリスをつくります。

7/日

かわはくであそぼう・まなぼう環境の日記念「水質調べ」

時間：①10：30～12：00 ②13：30～15：00

費用：無料

定員：なし（材料がなくなり次第終了）

内容：環境の日にちなみ、水質検査キットで水質調査を体験します。

13/土

5月企画展関連イベント兼かわはく体験教室「泥染めに挑戦」

時間：13：30～15：30

費用：200円（材料費）

定員：20名（申込順）

内容：土壌を使って布を染めます。赤い土や黒い土を使ってどのような染色ができるのか、お楽しみに！

21/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～「土の秘密を調べよう」

場所：第2展示室ほか

費用：無料

定員：随時10～15名ほど

内容：開催中の5月企画展に関連して特別解説と実験を行います。

7月

7/18/土~8/31/日

特別展「魚と人の知恵くらべ～魚の生態と伝統漁法」

5/日

かわはくであそぼう・まなぼう

川の日記念「七夕かざりづくり」

時間：①10：30～12：00 ②13：30～15：00

費用：無料

定員：なし（材料がなくなり次第終了）

内容：川の日を記念して七夕かざりをつくり、荒川大模型173に飾ります。

12/日

かわはく体験教室「竹の水鉄砲づくり」

時間：13：30～15：30

費用：200円（材料費）

定員：25名（申込順）

内容：竹をつかった水鉄砲をつくり、的当てを楽しみます。

19/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～「液化ってなんだろう？」

場所：荒川情報局

費用：無料

定員：随時5名ほど

内容：液化現象がどうしておこるのか、簡単な実験を体験します。

26/日

かわはく夏まつり

時間10：00～16：00

ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。開催日の1ヶ月前より電話またはFAX、E-メールでお申し込みください。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日（午前中）までです。③定員になり次第締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332

Eメール/web-master@river-museum.jp/

彩の国
埼玉県

2015年3月31日発行

